アサヒ緑健カップ「第40回 山鹿選手権大会IN福岡」

③12月、春季全国大会北九州支部予選。八幡南は年間を通して同支部の大会を全て制覇した

仲間らと挑む最後の決戦

③

あす開幕

アサヒ緑健カップ「第40回山鹿選手権大会IN福岡」は26、27日と9月2日の3日間、福岡市の雁の巣硬式第一野球場などで開かれる。3年生にとっては中学最後の公式戦で、福岡県南、北九州、福岡県北の県内3支部の47チームが参加して熱戦を繰り広げる。今大会の展望や出場選手紹介と合わせ、この1年間のボーイズリーガーの激闘を写真で振り返った。

【主催】（公財）日本少年野球連盟福岡県南支部【後援】スポーツ報知西部本社ほか【特別協賛】株式会社アサヒ緑健

守備力光る福岡

今夏でチームを卒部する中学3年生は、集大成となる大会。以前は熊本県山鹿市で開かれていたが、新型コロナウイルスの影響で2020年以降は、福岡県内に舞台を移して開催されている。

この1年間の実績上位が初戦から対戦するカードもある組み合わせで、激戦は必至の様相だ。連覇を狙う福岡は、投手を中心とした守備力が持ち味。現チームは優勝した春季全国大会予選以外の大会では決勝に勝ち上がっていないが、伝統的に連戦で力を発揮するのがチームカラー。例年40チーム以上が参加するこの大会の戦い方も心得ている。

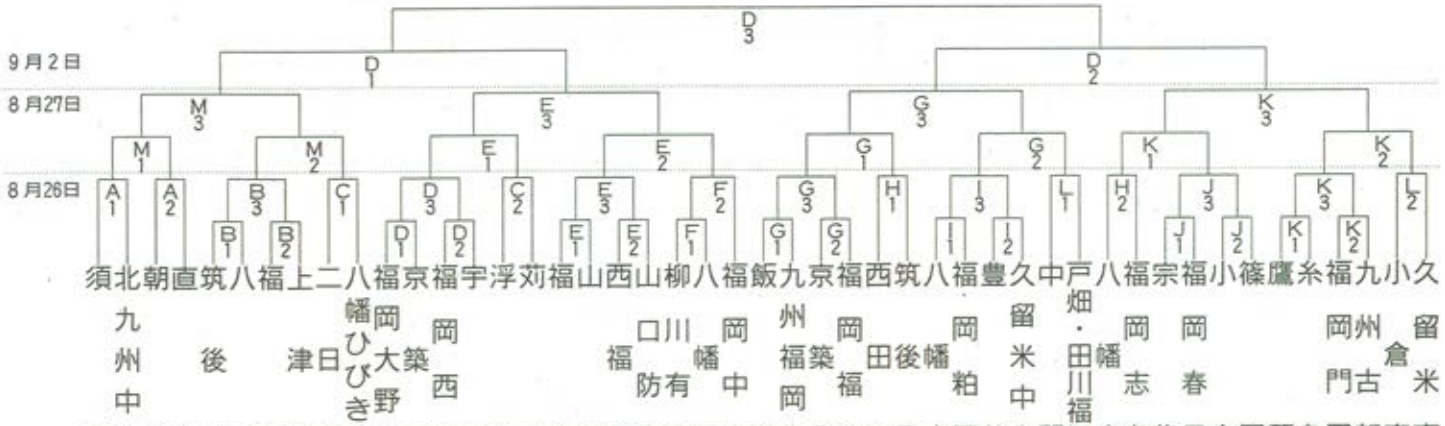
攻撃力の高さならば、糸島と飯塚で、選手権大会やジャイアンツ杯の出場を逃した悔しさをぶつける。

選手権大会で8強の福岡志免と、同大会で1勝を挙げた八幡南が初戦から当たる。勝った方が上位に進むのかも注目だ。今夏の全国大会に出場した筑後と京築は、ともにA、Bの2チームで参戦。これまで出番の少なかった選手たちの活躍が期待される。

7月以降の大会で好成績を収めた西田川や北九州中央、小倉、福岡春日は勢いがある。4～6月の大会で上位に進出した山口防府や苅田、中間、二日市なども力を備える。

一方、この1年間で思うような戦績を残せていないチームは、ラストチャンスにかけている。九州古賀、久留米東、福岡粕屋、朝倉などは投手陣が良く、初戦を勝って波に乗りたいところだ。

ボーイズリーガーとして、懸命に3年間白球を追いかけた選手はこれで終わり。仲間と少しでも長くプレーするために、最後の瞬間まで全力プレーを続ける。



A・北九州中央ボーイズグラウンド
B・汐井公園野球場
C・八幡ひびきのボーイズグラウンド
D・雁の巣硬式第一野球場
E・西畑運動公園野球場
F・八幡西ボーイズ球場
G・久末総合公園野球場
H・川崎球場
I・鳥栖市民球場
J・春日市西野球場
K・糸島球場
L・福智町民赤池球場
M・東海大福岡高グラウンド